

都留文科大学 内部質保証基本方針

はじめに

都留文科大学は、「人文科学研究＝人間探求の学問」を学び、卒業後は地域の教育や文化、福祉の向上のために貢献する」を使命とし、「菁莪育才」を学訓に、時代の変化に迅速に対応できる専門的な知識のみならず幅広い教養を備えた職業人、社会人の育成を目的としている。

本方針は、本学がその目的に則した活動において常に高い質を保つため、教育研究等の状況を点検及び評価し、自ら改善及び改革を行う内部質保証システムを有効に機能させるとともに、それらの成果を社会と共有することによって新たな価値を共創し続けることを定めたものである。

1. 内部質保証の基本的な考え方

- ① 都留文科大学の理念「人文科学研究＝人間探求の学問」を学び、卒業後は地域の教育や文化、福祉の向上のために貢献する」の実現に向けて、教育研究および管理運営等に関する自己点検・評価を実施し、その結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを継続的に行うことにより、教育研究水準の向上を図り、自らの責任でその質を保証する。
- ② 自己点検・評価の客観性・妥当性および内部質保証の有効性を高めるために、外部評価を受ける。
- ③ 社会に対する説明責任を果たすため、自己点検・評価結果および外部評価結果を公表する。
- ④ 教育研究活動の質や学生の学修成果の水準等を保証し、継続的に改善・向上を行うために、上記①～③を定期的に実施する。

2. 内部質保証の体制

本学の内部質保証体制は、大学レベル、プログラムレベル、授業レベルの三層構造からなり、それぞれが相互に連動することで、教育の質を組織的かつ継続的に保証・向上させる体系として整理する方針である。

大学レベルでは、学長を中心に理事会、教育研究審議会および教授会が関与する。自己点検・評価実行委員会が内部質保証推進組織として位置付けられ、学長を委員長として、全学的な自己点検・評価の実施指示、各組織への助言やフィードバックを担う。さらに、大学院研究科委員会、教務委員会、FD委員会、IR室といった内部質保証支援組織が、それぞれの観点から点検・評価活動を支え、その結果は大学運営に反映される。また、地方独立行政法人評価および認証評価にも適切に対応し、外部評価の結果を内部質保証の改善に活用する。プログラムレベルでは、各学部・学科および研究科が教育プログラムの自己点検・評価を主体的に実施し、その結果を自己点検・評価実行委員会へ報告する。事務組織は教育活動の実施や改善の支援、点検・評価の進行管理、法人評価・

認証評価への対応を担い、各センターにおいても、それぞれの特性に応じた教育プログラムの実施、点検および改善を行う。これにより、教育プログラム単位での質保証が体系的に確保される。授業レベルでは、教員がシラバスの作成・点検、授業の実践、成績評価、FD 活動を通じて教育力の向上に努める。一方、事務職員は各種計画の策定や達成度の振り返り、SD 研修を通じた能力向上を担い、教員との連携のもと教育活動を支える。これら三つのレベルが有機的に結び付くことで、大学全体から授業現場に至るまで一体となった内部質保証のサイクルが機能し、教育の質の維持・向上を図っている。

3. 内部質保証体制図

別紙 I

都留文科大学 内部質保証体制図

